

2018年2月4日 小同心クラック

参加メンバー：T、K、W

小同心クラックに登攀に行ってきました。木金と降雪があり、また天候の状況から1日ずらして入山しました。

土日と赤岳鉱泉にてアイスクャンディーフェスが開催されていたため、美濃戸口と美濃戸共に駐車場は大賑わい。赤岳山荘前の急傾斜を車(4WD・SUV)でなんとか這い上がり、駐車。美濃戸まで車を入れていただき、毎回感謝しきれません。

ジョウゴ沢との分岐にて、恒例の弱層テストを実施。新雪20cmほどで、30cmの箇所には顕著な弱層が見られました。雪崩が心配です。2550m付近で登攀具等の身支度を整えていると、大同心南稜へ行く1パーティーとスレ違いました。他、大同心ルンゼを詰めている1パーティーのみで非常に静かでした。先週黒々としていた大同心と小同心は、打って代わり雪と氷を纏いまさに厳冬期という装い。小同心クラック取り付きへのトラバースは、トレース無し。傾斜が強い中、ラッセル。特に足場が不明確な箇所は、フィックスロープにて確保していただき通過しました。トレースが付いていたら面白くない！とTさん満足気。

私は初めての冬の小同心クラックになり、夏のイメージを捨ててきたつもりが捨てきれなかったか。夏と全然違う!!全然ガバが無い!!先週登っていたら、どんなに楽だったか…そんな事を思うてしまうほどホールドが雪に埋まり掴み難い。しかも何となく、私が溝に入りたがってしまうため苦しくなる。上下から、体を離せ!!とフォローいただき、ああこういう事ねと納得しながら登った1ピッチ目。2ピッチ目は、ちゃんと体を離せたため楽々クリア。核心は過ぎたと思った3ピッチ目登り口に現れた、飛び出た岩に苦戦。小同心の頭から4ピッチ目まではコンテで通過。よくある登山ガイドや雑誌に書いてあるのはここまで。雪さえ降らなければ簡単な場所なのでしょう。氷に覆われた4ピッチ目が意外に難しいと感じたのは、いつものビビリ癖が発動したからなのかどうなのか。夏の様な小同心クラックを登っても面白くないでしょ?これぞ厳冬期!!ということで、貴重な氷化した小同心クラックを登ることが出来ました。悩んで登った箇所はあったけど、次回はもっと上手く登れそうな気がします。

登攀中に少々ガスに巻かれましたが、横岳山頂では青空が広がっていました。上手くガスが取れたため大同心稜から下降。落石を誘発しやすいルートになるので、3人の距離を詰めて進みました。懸垂することなく下降出来たのは、やはり的確なルートファインディングのおかげだと思います。2600m付近にて大休止。雪がタップリついているので、下山は非常に楽でした。

今回反省すべきは、装備のメンテナンス。最近妙に右足のアイゼンが外れると思っていたら、案の定、下降中に外れてしまいました。登攀中でなくて本当に良かった…。アイゼンは緩む物らしいです。思い込みではなく、ちゃんとしたメンテナンスが必要だと感じました。

[コースタイム]

美濃戸(5:40 発)—赤岳鉱泉(7:20)—小同心取り付き(10:00)—横岳山頂(12:30)—赤岳鉱泉(14:00)
—美濃戸(14:50 着)



①取り付きまでラッセル



②雪と氷を纏った小同心



③体は離すべし



④横岳山頂にて